

地域医療連携センター長 就任のごあいさつ

地域医療連携センター長 せお よしひろ
瀬尾 由広

このたび、地域医療連携センター長を拝命いたしました瀬尾由広でございます。
日頃より地域の医療機関の皆様には、多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼
申し上げます。

地域医療連携センターは、診療連携、患者相談、入退院支援、患者サポートなどの機能を備え、地域の
先生方からの患者さんのご紹介、入院や退院までを円滑かつスムーズに行える体制を整えています。ご
紹介いただく際は、診察の空き状況が即時に確認でき、その場で簡単に予約が取得できるインターネット
予約システム(C@RNA Connect)をご利用いただけます。24時間365日対応しており、患者さんをお待たせ
せずにご予約いただけますので、未登録の医療機関様はぜひお気軽にお問い合わせください。

また、地域医療連携をさらに充実させるために、本年度も地域医療連携フォーラムや桜山連携フォーラ
ムなどの交流会、勉強会を積極的に開催し、地域の先生方と直接お会いして現場の課題やニーズを共有
してまいりたいと考えております。

令和8年度には「救急災害医療センター」が開設予定であり、地域の先生方と緊密な連携のもと、高度急
性期医療の提供を充実させるとともに、慢性期疾患については地域の先生方との共同診療を推進し、患
者さんが住み慣れた地域で安心して療養できる医療環境を作り上げてまいります。

地域の皆様とのより強い信頼関係を築き、地域全体の医療の質の向上に貢献するため、職員一丸と
なって努力いたしますので、引き続き忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げ
ます。

地域医療連携センターメンバーのご紹介

令和7年4月からの新体制です。どうぞよろしくお願いいたします。



副センター長
総合診療科・総合内科部長
宮崎 景



副センター長
救急科部長
服部 友紀



副センター長
副薬剤部長
丹村 貴之



副センター長
副看護部長
松井 幸子



副センター長
地域医療連携室長
外山 敦子



地域医療連携 係長
石川 貴康



診療連携 主査
山村 清佳



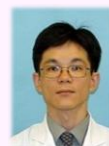
相談支援 主査
安田 美咲



退院支援 主査
鬼塚 真実



入院支援 師長
八代 律子



地域医療連携 主査
服部 隆宏

ルタテラ治療の導入

～神経内分泌腫瘍(NET)に対する新たな治療戦略～

放射線科 助教 とりい あきら
鳥居 暁



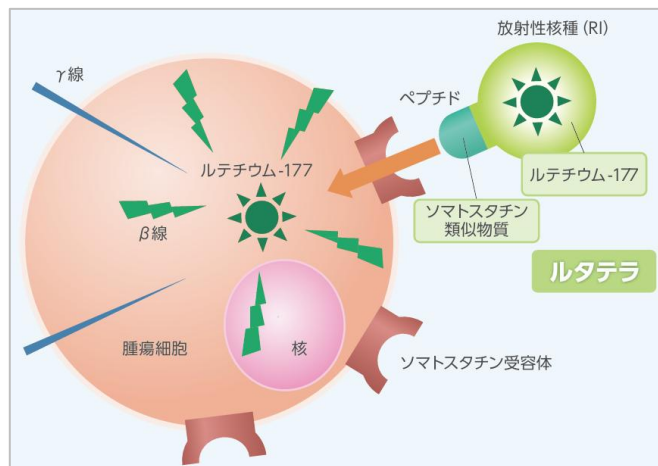
◆ ルタテラとは

神経内分泌腫瘍(NET)の腫瘍細胞の表面には、ソマトスタチン受容体が多く発現しています。ルタテラは、このソマトスタチン受容体が細胞内に取り込まれる性質を利用した治療法です。ソマトスタチンとよく似た物質にルテチウム-177という放射線を出す物質を結合させ、細胞の内側から腫瘍細胞に障害を与え、腫瘍の増殖を抑えます。

◆ ルタテラ治療の対象となる患者さん

原則として、以下の全てを満たす場合に治療対象となります。

- ・病理診断で神経内分泌腫瘍と診断されている。
- ・ソマトスタチン受容体シンチグラフィ(オクトレオスキャン検査)で、腫瘍のソマトスタチン受容体の発現が確認されている。
- ・トイレや食事を介助なしに自分で行うことができる。
- ・十分な腎機能が保たれている。



ノバルティスファーマ株式会社医療関係者サイトより引用

◆ 治療手順

- ・ルタテラは、8週間ごとに最大4回を点滴にて投与します。
- ・ルテチウムが出す放射線の一部は体の外に出てしまうため、周囲の方に影響する可能性があります。そのためルタテラを投与する際は、専用の病室に入院していただきます。多くの方は投与の翌日に退院できます。
- ・ルタテラは、主に腎臓から尿に排泄されます。排泄された尿からも放射線が出るので入院中や退院後は注意が必要です。



ノバルティスファーマ株式会社医療関係者サイトより引用

◆ 副作用

主な副作用には、吐き気や食欲低下、倦怠感、骨髄抑制(白血球や血小板の減少、貧血)、腎機能低下などがありますが、多くの患者さんは治療を完遂することが可能です。

◆ ルタテラ治療の相談窓口

ルタテラ治療を検討される際は、放射線治療科(担当: 鳥居暁)を受診してください。

治療に関するお問い合わせは、下記までよろしくお願い致します。

名古屋市立大学病院 放射線治療科 鳥居 暁 電話:052-851-5511(病院代表)